

視 察 報 告 書

報告者氏名：公明党 土田弘之宣

委員会名：民生常任委員会

期 間：令和6年11月6日（水）～8日（金）

視察都市等及び視察項目：

1. 【愛知県豊田市】アドバンス・ケア・プランニング（ACP [通称：人生会議]）の推進について
2. 【滋賀県草津市】滋賀県社会福祉協議会・子どもの笑顔 はぐくみプロジェクトについて
3. 【北海道札幌市】子ども発達支援総合センター「ちくたく」について

1. アドバンス・ケア・プランニング（ACP [通称：人生会議]）の推進について（11月6日）

視察1日目に愛知県豊田市役所を訪問し、アドバンス・ケア・プランニング（ACP [通称：人生会議]）の推進について福祉部地域包括ケア企画課より説明を受けた。

豊田市は日本最大の工業地域である中京工業地帯の中核的な都市であり、製造品出荷額は全国第1位と、日本を代表する工業都市である。人口は415,233人と愛知県で名古屋市に次ぐ2位の中核市であり、面積は県内で最も広い。

【事業概要】

豊田市では、自らが希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいることを周囲の人たちと事前に話し合い共有する「アドバンス・ケア・プランニング（ACP [通称：人生会議]）」の取組を推進している。

人は、誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があり、命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われている。そのため、自らが希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいることを周囲の人たちと事前に話し合い、共有

するACPの取組が重要となる。

【取組内容】

(1) ACP啓発強化期間の取組

▷期間

令和6年11月18日から令和6年12月8日

▷取組内容

- ① 広報とよた 11月号 いきいきシニアサロン「もしものときのための重要な『人生会議』」
- ② 介護保険事業所等と連携したオリジナル電子ポスターの作成
⇒市HP掲載、おいでんバス車内広告掲示
- ③ 中央図書館特設コーナー設置
(10/30~12/3)
- ④ 豊田スタジアムライトアップ(11/30)
- ⑤ デジタルサイネージ5か所



(2) 高齢者クラブ等への出向き講座

単位高齢者クラブを対象に「在宅療養」のテーマとセットで出向き講座を実施。啓発用リーフレットやわたしのノート(スタート編)を用いて、市民に直接的に啓発を行う。

出前講座の依頼件数が少なかったことから、啓発方法を見直し、令和4年度からは、職員が自ら積極的に出向く「出向き講座」に変更した。ACPは医療・介護サービスが必要となる可能性が高い。高齢者にとってより身近な内容であることから、高齢者クラブ連合会に協力いただき、主に高齢者クラブを対象として「在宅療養」のテーマとセットで出向き講座を実施している。

【取組の成果】

(1) 専門職のACP実践状況

ACPを意識している専門職は82.8%と多くの専門職がACPの理解を深めている状況。ただし、現場で実践できている専門職が少ないため、

現場でACPを実践できるようなスキルアップの取組が必要。

(2) 在宅療養者のACP取組状況

「大切にしている想いや受けた治療等」について考えている在宅療養者は49.3%です。自身の望む療養生活を送ることができるように、在宅療養者に対してACPの取組を促すような働きかけが必要です。

(3) 高齢者のACP取組状況

医療・福祉サービスが必要となったときに、自身の希望する療養生活について前もって考えている高齢者は86.4%と高い状況。一方で、家族と話し合いをしている高齢者は23.7%と低い状況のため、引き続き啓発を進めていく必要がある。

【所感】

豊田市では、医療・介護・福祉サービスを提供する関係機関とともに、ACPの推進をしており、人生をいかに自分らしく生きていくかを、市民への普及啓発ツールとして、「わたしのノート（スタート編）」を作成し、訪問看護師・薬剤師・ケアマネージャー等の専門職など多くの関係者と意見交換を実施しながら進めてきている。

本市で取り組まれている「エンディングプラン・サポート事業」とは違った方向性ではあるが、素晴らしい取組であり今後の施策検討の参考とさせていただく。

2.滋賀県社会福祉協議会・子どもの笑顔 はぐくみプロジェクトについて (11月7日)

視察2日目に滋賀県草津市にある滋賀県社会福祉協議会を訪問し、子どもの笑顔 はぐくみプロジェクトについて説明を受けた。

滋賀県は、人口約140万人で県の面積の6分の1を占める琵琶湖があり、「近畿の水瓶」と呼ばれる琵琶湖の水は京都府や大阪府にも供給され、産業用水、飲用水の源、観光資源としてその存在は大きい。草津市は、京都市や大阪市といった大都市のベッドタウン・衛星都市である。

【事業概要】

「子どもの笑顔 はぐくみプロジェクト」は、無縁からひたすらなるつながりへ、誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありが

とう」と看取られる人間的共感に根差した地域共生社会を実現するため、子どもを真ん中においた地域づくりをさらにすすめるため、滋賀県内100ヶ所以上にひろがる「遊べる・学べる 淡海子ども食堂」の継続的な運営のバックアップなど、滋賀の未来をつくる子供たちが、安心して過ごせる居場所がひろがり、子どもたちの笑顔をはぐくむコミュニティづくりを目指したプロジェクトである。

【取組内容】

(1) 子どもたちに関わる団体・施設への支援

- ① 遊べる・学べる淡海（おうみ）子ども食堂
県内221カ所（10人～100人規模）
開設支援金（10万円／1カ所）・子ども食堂安心・安全促進事業・うれしいことプラス1助成（物価高騰対策として12万円／年）・子ども食堂学びサポート助成
- ② フリースペース
県内17カ所
- ③ 児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり
児童養護施設 県内4カ所
児童心理治療施設 県内1カ所
ファミリーホーム・里親家庭など

(2) 地域の資源とのマッチングおよびネットワークづくり

「子どもの笑顔」のスポンサー募集
子どもの笑顔はぐくみプロジェクトの趣旨に賛同し仲間になってくださる方を募集し、現在のスポンサー数は、605件（企業団体451、個人154）

(3) 広報・啓発

啓発イベントの企画・開発
広報物の発行
啓発グッズの政策・販売

【所感】

滋賀県の子ども食堂は、人口約140万人に対して221カ所もあり、神奈川県は約920万人の人口に対して484カ所と人口比では約3倍設置がされている。

また、開設支援金など助成金も豊富で県としての取り組みが全く違っており、今後の施策検討の参考とさせていただく。

3. 子ども発達支援総合センター「ちくたく」について（11月8日）

視察3日目に北海道札幌市にある子ども発達支援総合センター「ちくたく」を訪問し、施設内見学と説明を受けた。

札幌市は、日本最北の政令指定都市である。人口は1,968,326人と全国の市の中でも横浜市・大阪市・名古屋市に次ぐ4番目の人口を有しており、北海道全体の人口の約4割弱（約37%）を占める大都市圏を構成している。

【事業概要】

札幌市子ども発達支援総合センター・ちくたくとは、お子さんの身体や心の発達、情緒面や行動面の問題に対して、医療・福祉の一元的な支援を目指すために、複数の施設が集まった複合施設であり、児童精神科、小児科、整形外科を持つ医療部門に加え、児童心理治療施設、福祉



型障害児入所施設の入所施設部門、就学前のお子さんのための通所施設部門として児童発達支援センターがある。

それぞれの部門が協働しながら一人ひとりのお子さんに対して必要な支援を考えていく施設になっている。

愛称”ちくたく”は、「心・知をはぐくむ（知育）」、「体をはぐくむ（体育）」を愛らしく表現したもので、時計の秒針のイメージで、ゆっくり、少しずつでも成長してほしいという意味も込められている。

【施設概要】

5つの施設が連携することで、1人の子どもの発達に際し、ワンストップでの支援を提供している。

- ① 子ども心身医療センター（児童精神科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科）
- ② 児童心理治療センター「ここらぼ」（児童心理治療施設）
- ③ 自閉症児支援センター「さぼこ」（福祉型障害児入所施設）
- ④ かしわ学園（福祉型児童発達支援センター）
- ⑤ ひまわり整肢園（医療型児童発達支援センター）

【所感】

- ① 軽度の児童への対応も障害の程度ではなく、生活上の困り度を重視し対応されていた。
- ② レスパイトサービスについては、ショートステイを希望する方が多く提供する事業所が足りない状況で、特に障がいの重い方が緊急に利用するショートステイ先がなかなか見つからない。
- ③ 同一施設内で多機能連携による弊害など課題がないか確認したが、所長をトップとしたが同一組織のため特段の課題はない。
- ④ 多機能連携の総合調整は、毎月開催する運営会議で各施設・部門が抱える課題の共有や総合調整を行っている。

政令市の非常に充実した施設であり、駅からの循環バスが整備されているなどアクセスにも配慮されていた。

本市においても「はぐくみかん」がほぼ同様の施設となっており、今後の施策検討の参考とさせていただく。